

第5回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会

G I S を活用した津波ハザードマップの 普及・啓発について



厚岸町総務課長補佐兼総務防災係長
亀井 泰

平成24年 6月28日

北海道から新たな津波浸水予測が示される

これに先立ち同年6月1日付け北海道からの文書で、北海道、北海道大学及び国土地理院北海道地方測量部が参画した「防災対策へのGIS活用検討会議」において、多くの自治体で職員自らが、津波ハザードマップを作成できるよう検討してきたことにより、北海道大学大学院 橋本教授 による「GISを用いた津波ハザードマップ作成マニュアル」が完成したので、これを活用されたい旨の通知があった。

なお、厚岸町では、北海道から新たな津波浸水予測が平成24年度早々に示されることを踏まえて、当初予算において、原図の直営作成を前提とし、印刷製本費のみ1,000,000円の予算措置をしていた。

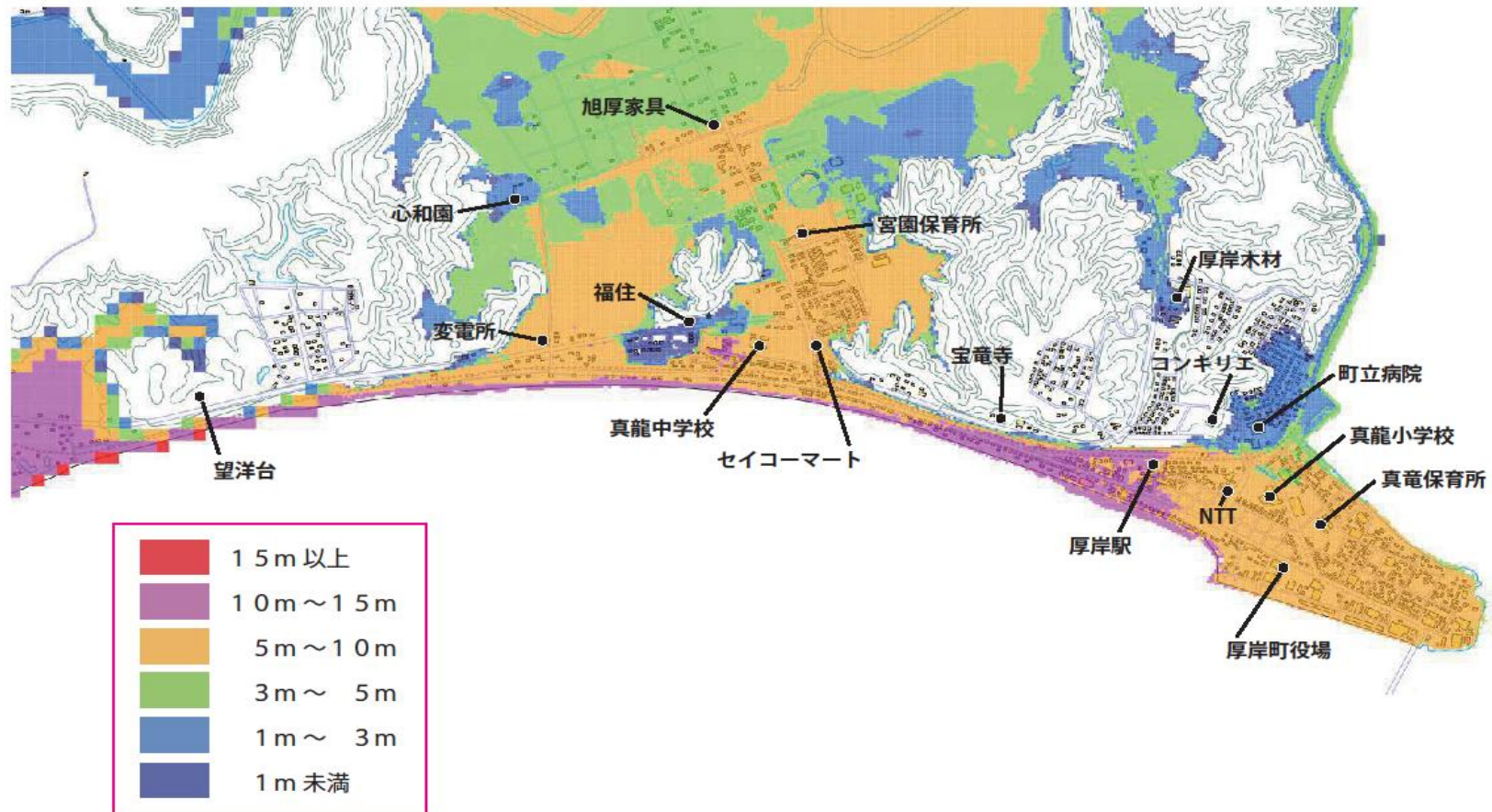
また、同年6月29日に北海道から「災害対策地理空間情報活用セミナー開催」の案内があり、橋本教授の講演もあったことから、迷わず参加した。

【速やかに取り組むべきこと】

- ①町議会への説明
- ②住民説明会
- ③町職員への説明
- ④避難場所の見直し
- ⑤ハザードマップの作成 (500年間隔地震津波ハザードマップの改訂)
- ⑥地域防災計画の改訂

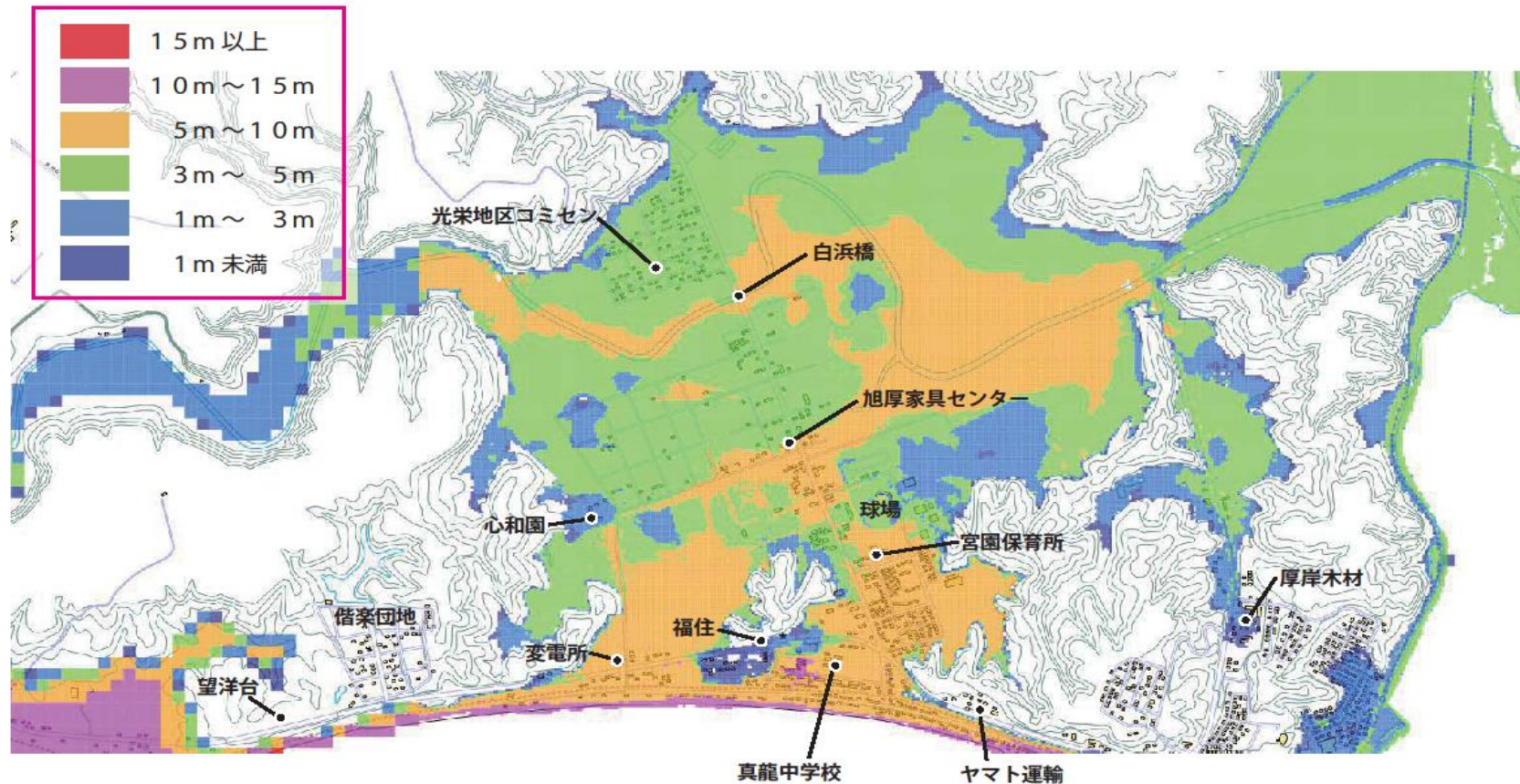
Quantum GISの活用 その1(1/4)

住の江・山の手・宮園・港町・真栄地区津波浸水予測図



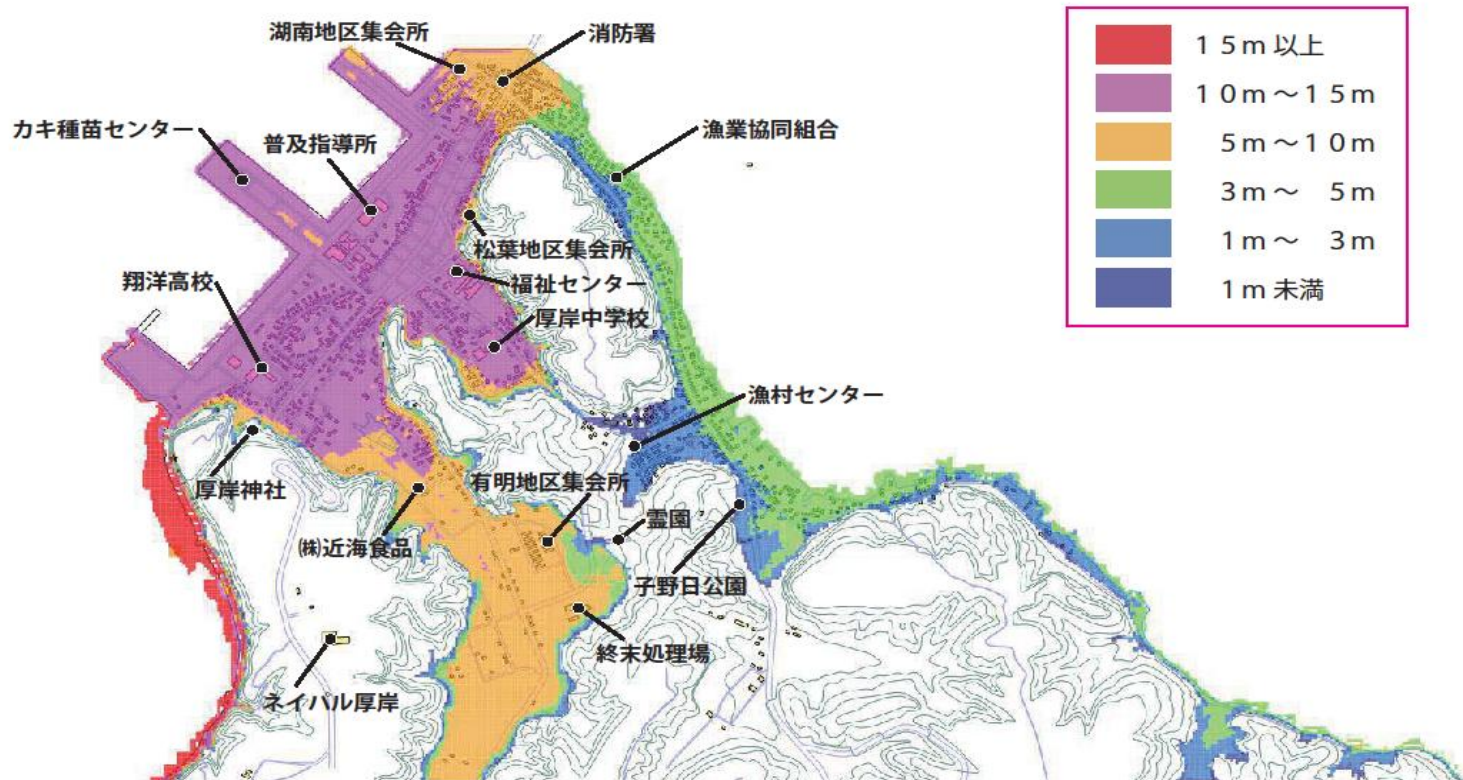
Quantum GISの活用 その1 (2/4)

宮園鉄北・白浜・光栄地区津波浸水予測図



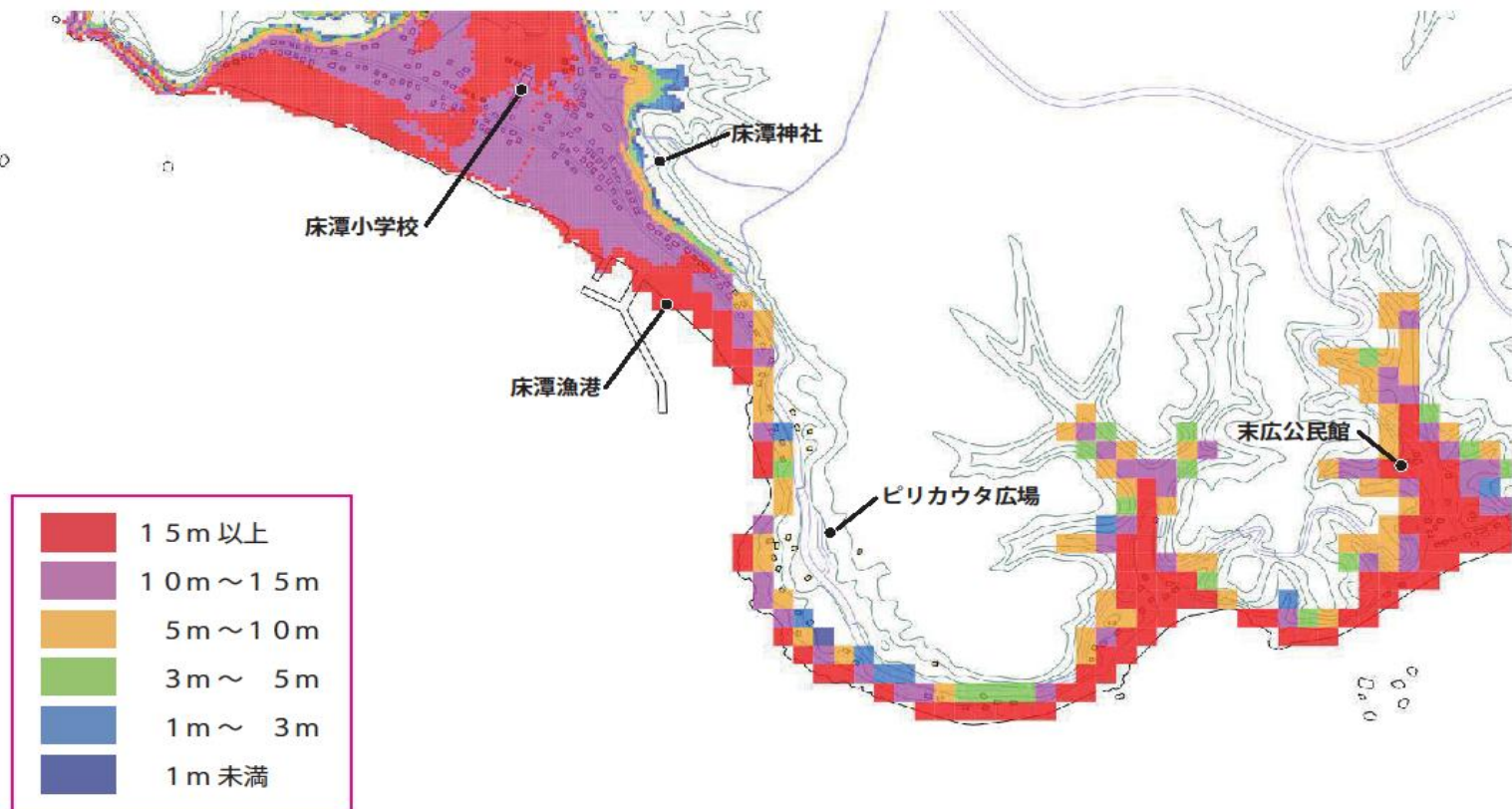
Quantum GISの活用 その1 (3/4)

湖南省街地津波浸水予測図



Quantum GISの活用 その1(4/4)

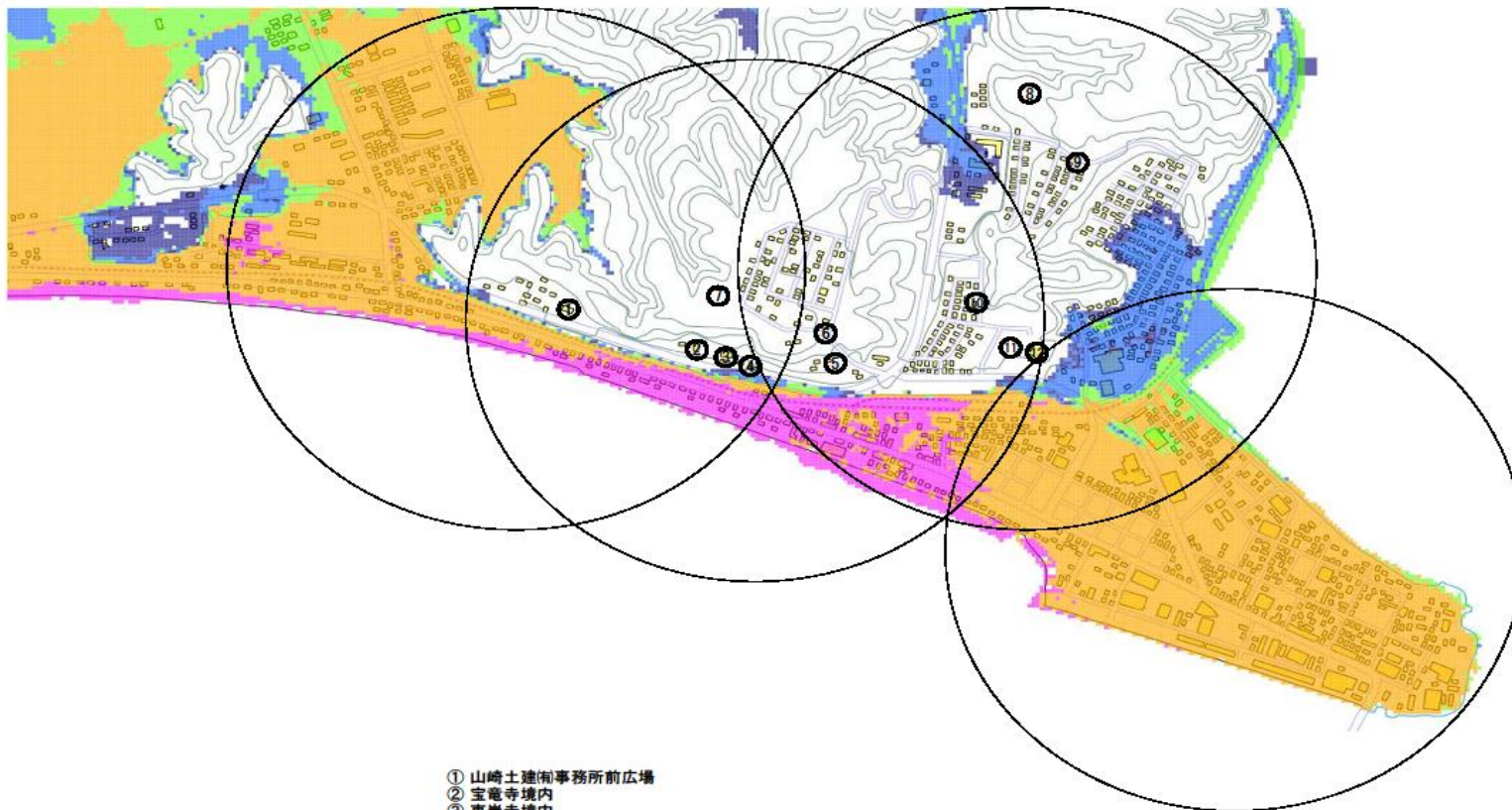
床潭地区津波浸水予測図



避難場所の見直し検討(7月)



Quantum GISの活用 その2(1/4)



- ① 山崎土建衛事務所前広場
- ② 宝竜寺境内
- ③ 東岸寺境内
- ④ 高野寺境内
- ⑤ 真龍神社境内
- ⑥ 宮園丘陵団地(道路・空き地)
- ⑦ 宮園丘陵地区集会所
- ⑧ 住の江丘陵公園
- ⑨ 住の江山の手高台(道路・空き地)
- ⑩ 住の江山の手地区集会所付近(道路・空き地)
- ⑪ 味覚ターミナル駐車場
- ⑫ 味覚ターミナル(1Fロビー)

円の直径=1,440m
(60.0m/分) × (29分-5分)=1,440m

S=1/10,000m

Quantum GISの活用 その2(2/4)

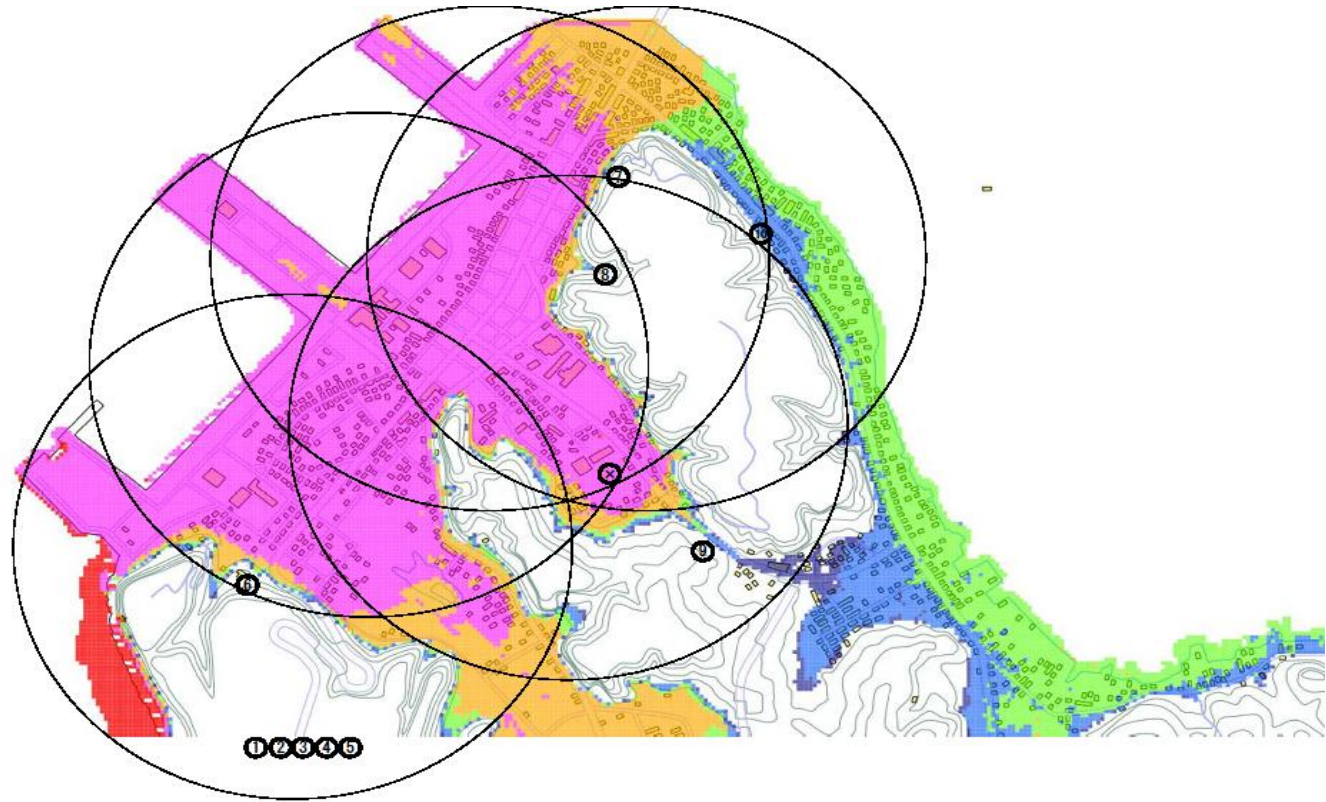


- ① 真竜基地
- ② 旧真龍中学校
- ③ 太田小学校体育館
- ④ 太田中学校体育館
- ⑤ 太田地区公民館とその周辺(開拓記念館含む)
- ⊗ 白浜高台=廃止

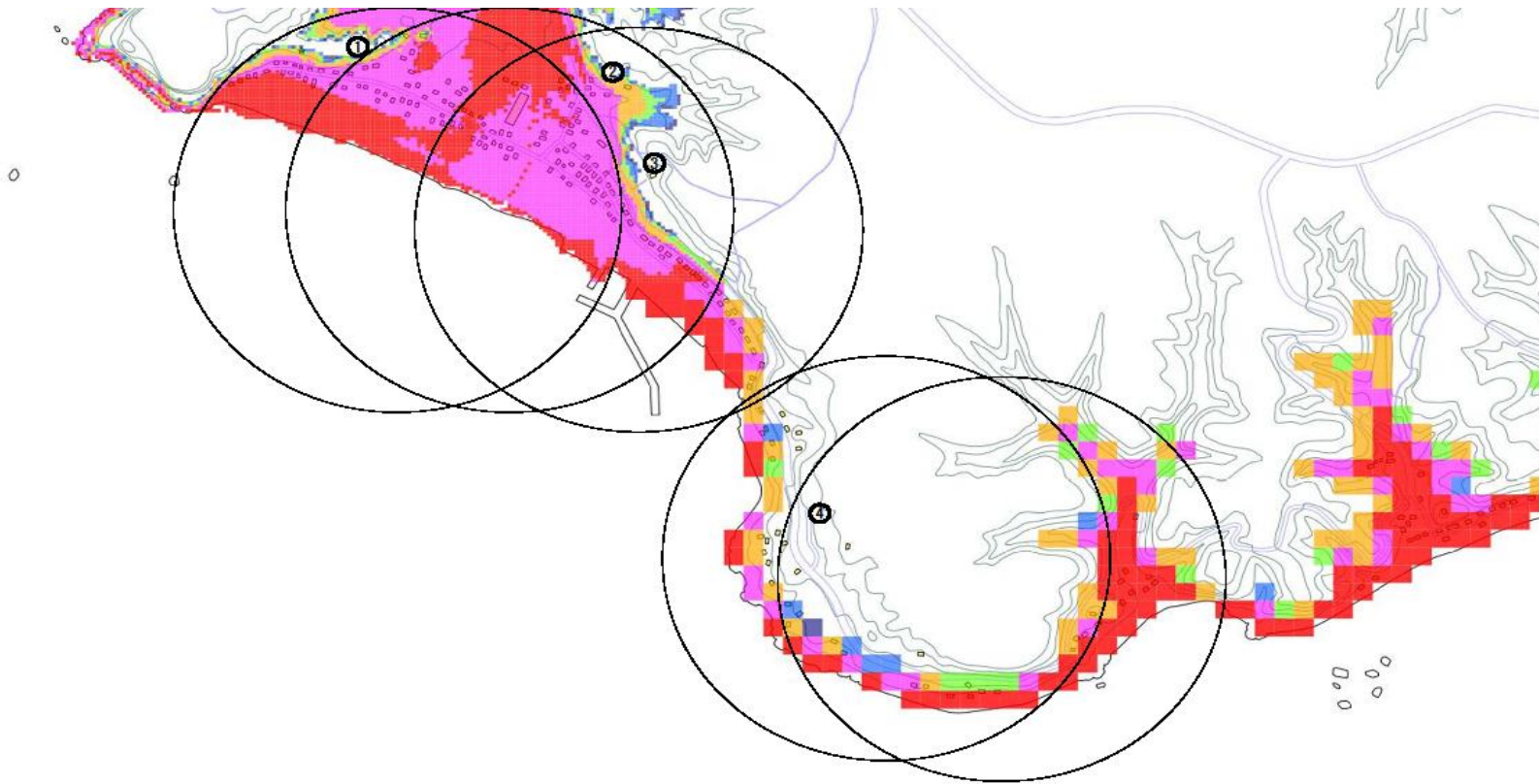
円の直径=1,440m
(60.0m/分) × (29分-5分)=1,440m

S=1/10,000m

Quantum GISの活用 その2(3/4)



Quantum GISの活用 その2(4/4)



- ① 衾高島食品裏山
- ② 床潭中央高台町有地
- ③ 床潭神社
- ④ ビリカウタ広場(多目的広場)

円の直径=1,140m
(60.0m/分) × (24分-5分)=1,140m
S=1/10,000m

住民説明会の開催（8月9日～8月28日）

～ Quantum GISを活用し、説明会において、リアルタイムで標高、浸水深をクリック表示し説明した。～



■Quantum GISを活用して、町議会議員、住民、職員への説明において、画面の拡大、縮小、標高、津波浸水深をリアルタイムで表示し、費用をかけずに普及すること及び説明することができた。

■同じ年に「厚岸町独自の海拔表示」を町内約160箇所に設置する際のエリア検討に役立つことができた。

■作製費用については、用紙A 1両面（A4に折込）、フルカラー、オーバー紙100kgを使用し、6,000枚印刷した。印刷費用は、896,700円であった。印刷費用以外、専門業者に委託せず、費用を安価に済ませることができた。

（成果品のハザードマップの地図は、国土地理院から1/25,000電子地形図を数データ購入し、その費用は、2,720円）

